

平成31年度 岡山県立和気閑谷高等学校 総合的な探究の時間(H31年度入学生) 全体計画

生徒の実態 多くの生徒は学習、部活動、ボランティア活動などに積極的に取り組み、地域からも熱心に活動していると評価されているが、学習面、生活面に指導の必要な生徒もおり、個々の生徒の成長が今後の課題である。	各学校における教育目標 ①誠実な心をもって最善を尽くし、学力と教養を身につけよう ②自らを律し、主体的に考え、置かれた場で課題を発見し探究する人になろう ③自他を敬愛し、心を開いてコミュニケーションのできる仁恕の心を育もう	保護者の願い 進路について、家庭での話し合いが一層進むように、学校主導で情報提供をしてほしい。学校生活の中で、個性を伸ばし、責任感・協調性・社会性をしっかり育ててほしい。
地域・社会の実態 岡山県の東部に位置し自然環境に恵まれる。地域は人口が減少し、商店街などは衰退の傾向にあるが、町は地方創生に取り組み、人口維持施策の一環として教育を重視している。町、町教委、小中学校、商工会等の連携も盛んである。	育てたい資質・能力 育む7つのチカラ 1. 自分を理解するチカラ 2. 職業とつなぐチカラ 3. 考えるチカラ 4. 行動するチカラ 5. コミュニケーション力 6. チームワーク力 7. 自立するチカラ	地域の願い 地域には同窓生が多く同窓会からの強い支援がある。就職においても企業からの期待度は高い。地域の拠点校としての地域と協働した活動が認知されている。高校の魅力化による町の活性化への寄与が期待される。
学校の実態 普通科とキャリア探求科双方に科目を相互に選択できる類型がある。東備地域の人口減少が進み、高校進学者数も平成30年代後半には現在の6割程度となることが予想される。	各学校において定める目標 (閑谷學(総合的な探究の時間)の目標) 「閑谷学校」の学びの精神を引き継ぎ、地域との関わりを重視しながら、自ら学び、自ら考える姿勢と、問題解決していく力を身につける。	教職員の願い 学力と教養を身につけ、誠実に取り組める人物になってほしい。自らを律し、主体的に考え、置かれた場で課題を発見し探究する人物になってほしい。自他を大切にし、心を開いてコミュニケーションのできる人物になってほしい。

各学校において定める内容			
目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
(1年次) 和気高の課題に対し、地域をヒントに、どのように解決策が提案できるか (2年次) ①(就職希望者)働くことや仕事に関する現代的テーマ②(進学希望者)調査・実践を通じて地域に対して高校生として何ができるか (3年次) 生徒自身がこういたい未来を実現するために必要な事がらとは何か(生徒自身と社会のより良い未来とは何か)	知識及び技能 自ら設定した探究活動と他教科での学びが結びつけられる知識。また、学んだことを統合して自分の言葉でまとめ説明できる技能。	思考力、判断力、表現力等 活動から地域・社会の課題を発見し探究できる力。探究や活動のふり返りを通して自己の在り方を考えながら適切に判断できる力。プレゼン力、質問力、傾聴力等のコミュニケーション能力。	学びに向かう力、人間性等 パフォーマンス評価やOPP等の個人内評価から内省する力。高校内外の多様な価値観を持つ人々と交流し、地域・社会に参画・貢献しようとする態度。

学習活動 全学年では金曜6限、2年次生は火曜7限を加えた時間を「閑谷學」として年間計画を作成する。時間割変更で2時間連続とすることも可能とする。また、必要に応じて長期休業等も有効に活用し、体験型学習を行う。	指導方法 HR担任による指導を基本とするが、学習内容によっては、年次団、全教員の体制で展開する。また、社会人講師の招聘や、少人数のグループを構成し各担当教員のもとでの活動、大学や企業訪問、と多様な学習形態を効果的に取り入れる。	指導体制 閑谷學・LHR委員会で育てようとする能力や態度を踏まえた全体目標・年次目標を提示したうえで、全体計画・年間指導計画を作成する。各学習内容については委員会と各課および年次団で連携し、実施要項を作成し実施する。	学習の評価 活動への興味・関心・意欲・態度、課題の設定能力や解決能力の伸長の状況などを総合的に評価する。また、出席状況、ワークシートや振り返りシートの記入、レポート・論文・ポスターなど成果物の内容などから活動の様子を把握し総合的に評価する。
---	---	--	--

各教科との関連 各教科の指導において、自ら学び、自ら考える過程を大切に学習活動を充実させる。また、現在の学習内容が将来どのように社会に関わっていくかを意識させる教材や場面設定を工夫する。	地域や大学との連携 探究学習、進路学習、体験型学習では、各分野で活躍されている地元地域や企業の方を講師として招聘し、活動場所も旧閑谷学校をはじめ地域の施設を効果的に活用する。また、各年次の研究発表会への参観・講評などで連携を深める。	小・中学校や他の高等学校との連携 総合的な探究の時間の活動内容を中学校と情報交換し、活動内容の参考とする。小・中学校とは2年次生の探究活動で、出前授業や子ども塾の活動で連携を深める。
---	--	---